

# 本日の上映作品から・・・

観客賞エントリー作品13本(日本初公開・愛知初公開)

## 百合子、ダスヴィダーニヤ

諦めず、妥協せず、真に撮りたい作品を!

監督: 浜野佐知・映画監督

大正時代から昭和の時代に『男が女を愛するように、女を愛する』と公言して生きたロシア文学者・湯浅芳子と、天才少女作家としてデビューし、戦後はプロレタリア文学の旗手として活躍した中條(宮本)百合子。私は15年ほど前、沢部ひとみさんのノンフィクション「百合子、ダスヴィダーニヤ」に出会い、芳子と百合子という二人の女性の鮮烈な生き方に惹かれて映画化を決意しました。良妻賢母が良しとされた時代に、作家として社会の中で女がたどり着けない高みに昇りつめようとした百合子。「男×女」という世間が押し付ける愛の在り様に抵抗し、自らのセクシュアリティに正直に生きた芳子。90年前の日本で、自由に、そして自分らしく生きた二人の魂のぶつかり合いを、現代を生きる女性たちに届けることこそ、女性監督としての私の仕事」と思ったのです・・・

監督: 浜野佐知  
制作: 森満康巳  
脚本: 山崎邦紀  
撮影: 小山田勝治  
音楽: 吉岡しげ美  
◇キャスト  
湯浅芳子/菜葉菜  
中條百合子/一十三  
荒木茂/大杉蓮  
中條菫江/吉行和子  
◇浜野佐知監督



1948年、徳島県生まれ。ピンク映画制作プロダクションで修行を積み、71年「十七才好き好き族」で監督デビュー。84年、(株)タカ舎を設立。女性の視点で「性」を描くことをテーマに総計300本を超える作品を発表し、98年「第七官界彷徨・尾崎翠を探して」で一般映画に進出。高齢女性の恋愛をテーマとした「百合祭」(01)が各国映画祭で高く評価される。著書に「女が映画を作るとき」(平凡社新書)。

◇スタッフ

## 明日はきっとよくなる Tomorrow Will Be Better

現代のハックルベリー・フィンたちの寓話

監督: 吉田美奈子 映画字幕翻訳家

ドロタ・ケンジェジャフスカ監督は、著名なドキュメンタリー作家だった母親の仕事ぶりを通して子どもの接し方を学んだというが、ロケ地探しの途中で見出されたという3人の子役たちの自然な表情はとて演技とは思えない。カメラは6歳のベーチアの視線に寄り添い、世界は幼年期の茫漠とした感覚に満ちている。地理的な情報がなくて混乱するという批評もあるが、それゆえにこの作品は型どおりのプロパガンダを脱して、爽快なピカレスクとなり、寓話にも似た普遍性を獲得していると言える。

風が輝き、草が揺れ、水が匂い、この世は光と影と謎に満ちた「でっかい宝島」のようだ。冒頭、年上のふたりが手にする地図もまるで宝島の地図のようで、子どもたちは巨大な世界の中を、あくまで自力で、未来という宝を目指してひたすら歩いていく・・・

◇スタッフ  
監督・脚本: ドロタ・ケンジェ

ジャフスカ  
制作・撮影・美術: アルトゥル・ラインハルト  
編集: ドロタ・ケンジェジャフスカ、アルトゥル・ラインハルト  
◇キャスト  
ベーチア/オレグ・リバ  
ヴァーシャ/エヴゲニー・リバ  
リャーパ/アフメド・サルダ  
ロフ  
◇ドロタ・ケンジェジャフスカ監督

1957年、ポーランドのウッチ生まれ。ウッチ大学で文学を、モスクワで映画演出法を学び、ウッチ国立映画大学を1981年に卒業。91年に初の長編映画「ディアブリー・悪魔」を監督。グディニヤ・ポーランド映画祭で最優秀監督賞・審査員特別賞を受賞する。最近作「木洩れ日の家で」(07)が2011年4月、日本で公開された。



## 牛と一緒に7泊8日 Rolling Home With A Bull

牛が導く悟りへの道 イム・スルレ映画監督

この映画の出発は2007年の冬の初めのタクシーの中だった。ラジオがキム・ドヨン作家の「牛と一緒に3泊4日」の出版について伝えていた。この小説を書いた作家がなんと江原道珍富という田舎に住む農民で一人暮らしの青年であることと、「牛を売りに行った男が牛を売ることができず、昔の恋人に出会って3人で旅をする」という簡単なあらすじを聞いたとたんに興味がわいて、次の日すぐ小説を買って読んだ。

小説は思った以上に魅力的であったが、映画化はちょっと難しいスタイルのものだった。この小説は文学的で観念的な表現が多く、ファンタジーと現実の境界が曖昧で映画として表現するのは難しいだろうし、表現したとしても制作費が多くなるのに比べ、大衆的な要素が少なかったからである・・・

◇スタッフ

監督: イム・スルレ  
制作: ヤン・ドンミュン  
撮影: パク・ヨンジュン  
原作: キム・ドヨン  
◇キャスト  
ソンホ/キム・ヨンピル  
ヒヨンス/コン・ヒョジン

◇イム・スルレ監督



1960年生まれ。漢陽大学で英文学を専攻し、同大学院で映画学を学ぶ。その後、パリ8大学で映画学の修士号を取得。「スリー・フレンズ」(96)、「ワイキキ・ブラザーズ」(01)で評価を高め、長編3作目「私たちの生涯最高の瞬間」(07)は国内の映画賞を総なめし、あいち国際女性映画祭2008でも観客賞を受賞する。他作品に「もし、あなたなら〜6つの視線〜」(03)、「飛べ、ペンギン」(09)など。

## 遙かなるふるさと-旅順-大連-

なぜいま「遙かなるふるさと-旅順-大連-」なのか

監督: 羽田澄子・記録映画作家

この映画は私が長い間、作りたいと思いつけてきた映画でした。何故か。私は大正15年(1926)大連市で生まれました。父は大連の女学校の教師でした。日本にも一時いましたが、旅順・大連で長く教師を勤めていました。大連は中国東部の最南端、関東州の都市で、日清戦争に勝利した日本が清から租借したのですが、ロシア、フランス、ドイツの三国干渉によって清に戻され、ロシアが租借し、帝政ロシアによって建設された街です。しかし日露戦争に勝利した日本が関東州を租借。太平洋戦争の敗戦までの40年間支配したのでした。私が成人するまでの日本は、満州事変、満州国建国・日中戦争・太平洋戦争・そして敗戦と、戦争に明け暮れた時代でした。敗戦は大連で迎えました。そんな私にとって、懐かしい故郷は、多感な時代を過ごした、

旅順そして大連なのです・・・  
◇スタッフ  
演出: 羽田澄子  
製作: 工藤充  
撮影: 相馬健司  
◇羽田澄子監督



1926年、旧満州生まれ。自由学園を卒業後、岩波映画製作所に入社。「村の婦人学級」(57)以降、90本を越すドキュメンタリーを製作する。主な作品に「薄墨の桜」(77)、「痴呆性老人の世界」(86)、「安心して老いるために」(90)、「歌舞伎役者 片岡仁左衛門」6部作(92~94)、「住民が選択した町の福祉」3部作(97~2005)、「終わりよければすべてよし」(06)、「嗚呼、満蒙開拓団」(08)

## 日本映画名作

樹氷のよろめき

1968年/98分/監督 吉田喜重

百合子は愛人・杉野との仲を精算するため彼と旅に出る。だが同意しない男を残して、かつての恋人のいる街を訪れ、再会する。やがて杉野が追いつき、冬の北海道を舞台に三人の危険な愛が交錯する。「情炎」(67)に続き、岡田茉莉子が愛に絶望したヒロインを冴え冴えと演じる。



## 震災被災地支援 おすすめ東北名産品

1F 交流サロンで開催中

青森県:



シャイニー、金のねむた

宮城県:



阿部の笹かまぼこ

## 私の少女時代

障害者の生きぬく力と健常者たちの支える力

監督: 石子順 映画評論家

中国障害者連合会の女性会長チャン・ハイディーが自分の小説「車椅子の上の夢」を脚色。フェン・ゼンジ監督とその妻でプロデューサー兼監督のチャオ・ホイリーとが共同して撮った障害者映画2作目である。

1960年代後半。小さい時から下半身麻痺で学校にも行けなかった少女ファンダン。ある日、アコーディオンでソ連歌曲が聞こえた。窓越しに見るとかっこいい青年が弾いていた。身体の不自由な少女と青年の純愛が芽生え、それを文化大革命がはばむ。

内外の文化を否定・破壊する文革は焚書も行った。その本をシャツの下にかくしたリージャンは見つかって監禁される。ファンダンに持つていこうとしたためだ。やがてリージャンは草原地帯に、ファンダンも両親と小さな村に下放された。ファンダンとリージャンとの別れの握手のクローズアップが切ない・・・

◇スタッフ  
監督: チャオ・ホイリー、フェン・ゼンジ  
製作: チャオ・ホイリー  
脚本: チャン・ハイディー  
撮影: スン・ミン  
◇キャスト  
ファンダン/リー・イーシャオ  
リージャン/ワン・イー  
◇チャオ・ホイリー&フェン・ゼンジ監督

